

平成28年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 穴生 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成28年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none">・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	10.4	70	5.6	56	12.1	76	5.8	45
全国	10.9	73	5.8	58	12.4	78	6.1	47

(2) 本校の学力調査結果の分析

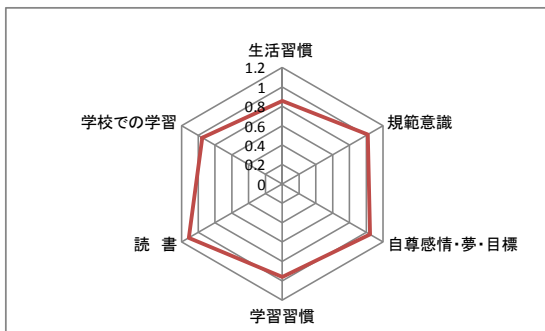
国語A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には全国平均正答率とほぼ同等であるが、下回っている領域もある。 ローマ字の理解について課題があり、復習して正しく理解する必要がある。 	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	目的に応じた正しい話し合いの内容を選択する問題は正答率が高かった。	下回っている
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> ローマ字の読み、書き。 説明として、正しい表現内容を選択する問題は正答率が低く、課題が見られた。 	

国語B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には全国平均正答率とほぼ同等である。 読む能力、書く能力においてやや課題があり、日々の授業の中で自分の考えを書く等の練習が必要である。 	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿った質問を書く問題については正答率が高かった。	同程度である
	努力が必要な問題	目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、まとめながら書く問題に課題があり、日々の学習の中で書く場面を多く取り入れる必要がある。	

算数A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には全国平均正答率とほぼ同等である。 数と計算に関しては定着している傾向がある。数量関係問題の得点率が低い。 	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	整数、小数の計算は正しく理解できている。	同程度である
	努力が必要な問題	割合における、もとにする量や比べる量に対する理解がしっかりとできていない傾向がある。テープ図や関係図等を使った問題を多く解くようにして、定着を図る必要がある。	

算数B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には全国平均正答率とほぼ同等であるが、下回っている領域もある。 	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	ハードルの数とインターバルの数の関係を式に表し、別のハードルの位置を求める問題の正答率が比較的高かった。	下回っている
	努力が必要な問題	領域に関係なく、記述式の問題に関しては全国平均正答率と同様に正答率が低い。そして無答率が高い。練習問題を多く解いて苦手意識をなくす必要がある。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> 決まりや約束を守ったりすることの大切さをしっかりと理解できている。 将来の夢をしっかりともっている子どもが多い。 家庭学習の時間がやや不足している傾向がある。土日等の休日に学習時間が1時間以内の子どもが多い。 自分で計画を立てて学習している子どもが少ない。 学校での学習で自分の考えを書いたり、説明したりする時間が不足している。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<ul style="list-style-type: none"> 国語、算数等の学習時には自分の考えを書く、全体の場やグループ等で説明する場面を取り入れる。 国語、算数どちらに於いても、記述式の問題を解く練習時間を設定し、最後まであきらめずに問題に取り組む意欲をもたせるようにする。

② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> 日々の宿題だけでなく、自分で計画を立てて家庭学習に取り組む習慣を身に付けさせる必要がある。学力向上に関する会議等で自主学習に関する話し合いを行い、学年に応じた自主学習について考え、3学期までには全学年で取り組んで行くようにする。
--